

CHALLENGER!



秋田市 A-linker (エーリンカー)

### コーヒーによる場づくりと挑戦の支援活動

秋田を盛り上げたい——そんな想いから結成されたのが、幼なじみ3人のユニット「A-linker (エーリンカー)」だ。ユニット名には、秋田で人と人をつなぐ存在でありたいという願いが込められている。メンバーはリーダーの藤枝義晃さん(通称ume)、自家焙煎のコーヒーを提供する横山俊介さん(通称アルチ)、接客で場を支える五十嵐育子さん(通称らっしー)。

A-linkerが取り組むのは、無料でコーヒーを振る舞い、対話の場を作る「フリーコーヒー」の活動だ。一見するとただの憩いの場のようなのだが、実は参加者の自分もやってみようという気持ちを引き出し、起業や新たな挑戦を後押しする役割も担っている。

### 「変わったこと」で挑むフリーコーヒーからの居場所づくり

A-linkerの活動は、地元で何か面白いことができないかと3人で模索し始めたことからスタートした。転機となったのは、建物の1階から街の賑わいづくりを提唱する田中元子さんがラジオで語った「フリーコーヒーは、やってみると盛り上がりやすい」という言葉だった。それを聞いたumeがこの活動に挑戦したいと直感し、2人を誘ったようだ。当時の秋田には馴染みのない取り組みだったが、あえて「変わったこと」を実践することで、どんなことにでもチャレンジできる風土を作りたいと考えたという。

2023年1月に活動をスタートさせたフリーコーヒー。その目的は街の賑わいづくりと、自らアクションを起こす新たな挑戦者を生み出すことにある。人と人をつなぐという願いを体現するべく、心理学を学んだumeが対話を通じて相手の意欲を引き出し、アルチが本格的なコーヒーで場を和ませ、らっしーが温かく迎え入れる。対話を通じて個人の想いと最初の一步を丁寧につなぐことが、活動の核となっている。この自然な連携が、偶然立ち寄った人でも安心して夢を口にできる土壌を作っているのだ。

# 一杯のコーヒーがつなぐ 秋田の新しい居場所と挑戦

## 何気ない会話をきっかけに、一人ひとりの「やりたい」を形に

現在、A-linkerは月に3、4回ほどのペースで、秋田市内の公共施設を中心にフリーコーヒーの活動を行っている。あえてターゲットを絞らず、偶然の出会いを大切にしているオープンな場だからこそ多様な人が集い、何気ない会話の中から行動を起こすチャレンジャーが生まれている。

例えば、「趣味のイラストを見せるのが恥ずかしい」と話していた人がネット販売を始め、個展を開催するまでに至った。お菓子を作って販売したいという相談から、製造許可を取得して個人事業主として起業したケースもある。こうした一人ひとりの「やりたい」という想いを大切に汲み取り、具体的な形にするための対話を丁寧に重ねている。さらに彼らは、参加者が実践を積み重ねる場として「チャレンジマルシェ」を不定期で開催している。出店を通じて本人の気づきを促し、起業に向けた小さな一歩を後押ししている。



和室に満ちる香り。コーヒーがつなぐ穏やかな輪

### 活動詳細

フリーコーヒーを軸とした、人と人をつなぐコミュニティ活動。対話を通じたオープンな交流の場から、秋田の賑わいと新たな挑戦を創出している。誰もが次の一歩を安心して踏み出せる活動拠点の形成を目指す。

- 拠点名** アルチスペース (2026年内完成予定) **活動名** フリーコーヒー
- 住所** 秋田県秋田市新屋豊町15-10隣り **駐車場** 有り(4台) **連絡先** contact@akitafc.com

※活動名、連絡先以外は、年内完成予定の新拠点に関する情報です。

### 藤枝さん(ume) からひとこと

ふらっと立ち寄って気軽に  
お話ししませんか？

秋田には、新しい挑戦を面白がり、応援したい人がたくさんいます。まずは私たちに想いを話すことから始めてみませんか？



誰かの日をそっと温める。想いととも注がれるこだわりの一杯

## 新拠点「アルチスペース」から始まる挑戦

3人の今後の目標は、コーヒーを振る舞う居場所づくりと、起業や挑戦の伴走支援を両輪として、持続可能な事業へと育てていくことだ。その中核となるのが、オープンに向けて準備を進めている新拠点「アルチスペース」である。アルチの自宅にある小さなコーヒー工房では手狭になったため、隣接する土地を活用し、人々がゆったりと集まれる空間を確保する予定だ。完成後は、フリーコーヒーの開催場所としてはもちろん、ワークショップの会場や、何かを始めたい人が気軽に試せる貸し出しスペースとしての機能も持たせる。3人の多様な視点を活かし、一人ひとりの歩みを多角的に支える。

この拠点を足がかりに、彼らはこれからも地域の人々の「ちょっとやってみよう」という気持ちを、美味しいコーヒーとともに軽やかに応援していく。



instagram